

中 学 校

令和 3 年度

教育研究員研究報告書

音 楽

東京都教育委員会

目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究の視点	1
III	研究の仮説	2
IV	研究の方法	2
	1 基礎研究	2
	2 研究の進め方	2
	3 研究構想図	3
V	研究内容	4
	〈指導事例1〉	4
	〈指導事例2〉	8
	〈指導事例3〉	12
VI	研究の成果と課題	15
	1 研究の成果	15
	2 研究の課題	16

研究主題：主体的に学習に取り組む態度の育成 ～学びに向かう力、人間性等の涵養を目指して～

I 研究主題設定の理由

中学校学習指導要領（平成 29 年 3 月）（以下、「学習指導要領」という。）の改訂に伴い、子供たちに身に付けさせたい能力が三つの柱として明確に示された。本改訂を踏まえ、今年度の共通研究テーマは、「これからの社会を主体的・創造的に生き抜いていく子供の育成」となっている。

本研究では、「学習指導要領」の改訂で整理された資質・能力の一つである、「学びに向かう力、人間性等」について焦点を当てることとした。「学びに向かう力、人間性等」については、知識及び技能を習得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学びを調整しながら、学ぼうとしているかどうかという内容になっている。これは、従前の「音楽に対する関心・意欲・態度」とは質が異なっており、その目標に対して評価とその方法も改善しなければならない。

この「学びに向かう力、人間性等」について、「学習指導要領」には、生徒の学習状況を的確に捉え、教師が指導の改善を図るとともに、生徒が自らの学びを振り返って次の学びに向かうことができるようにすることと示されている。その実現には、学習評価の在り方が極めて重要であり、今年度の研究の全体テーマである「これからの社会を主体的・創造的に生き抜いていく子供の育成」とも大きく関わっていると考えている。

今年度より、「学習指導要領」の全面実施が始まっている。特に、「学びに向かう力、人間性等」の中の「主体的に学習に取り組む態度」の評価についての考え方や、題材に合わせた適切な評価方法を工夫することで、「これからの社会を主体的・創造的に生き抜いていく子供の育成」につながるものとして、研究テーマを設定した。

II 研究の視点

研究主題に迫るため、次の二つの視点から効果的な指導法を検討し、検証授業による実践研究を行う。

○ 「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準についての考え方

従前の「音楽に対する関心・意欲・態度」の評価規準とは異なる内容となっている。

その内容とは、生徒が自らの学びを振り返って次の学びに向かうことができるようにすることである。

そのために、「何ができるようになったのか」「何がこれからの課題なのか」「今までに学んだ内容や自分の生活との関連は何か」を評価したり、「上記の点を達成するために粘り強く学習に取り組む態度」を評価したりすることが必要だと考える。

○ 題材に合わせた適切な評価方法の工夫

今回の研究では、表現領域（歌唱、器楽、創作）において、授業のどの場面で、どの

ような方法によって評価をすることが、生徒の学習目標への達成につながるかを明確にして、授業実践を行った。

Ⅲ 研究の仮説

教師が、「主体的に学習に取り組む態度」の評価についての考え方を研究したり、題材に合わせた適切な評価方法を工夫したりすることで、「主体的に学習に取り組む態度」を適切に評価することができ、生徒は、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学びを調整しながら、学ぶようになるであろう。

Ⅳ 研究方法

1 基礎研究

今年度より「学習指導要領」が全面実施になったが、具体例が少なく、どのような視点で評価規準を設けるのかなど、様々な学校や各教科における課題があることが分かった。

そこで、以下の文献等を基に、音楽科における「主体的に学習に取り組む態度」の評価について、研究・協議を行った。

- ・ 「中学校学習指導要領解説音楽編（平成29年7月）」
- ・ 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（中学校編）音楽（国立教育政策研究所教育課程研究センター 令和2年3月）
- ・ 「平成29年度 教育研究員研究報告書 中学校 音楽」（東京都教育委員会 平成30年3月）
- ・ 「平成30年度 教育研究員研究報告書 中学校 音楽」（東京都教育委員会 平成31年3月）
- ・ 「平成31年度（2019年度）教育研究員研究報告書 中学校 音楽」（東京都教育委員会 令和2年3月）

2 研究の進め方

研究員各自の実践及び校内の状況、区・市教育研究会等での実践発表から、「学習指導要領」の実施に係る課題を整理することにより、基礎研究を行った。

そして、基礎研究を踏まえて、7月・8月の月例会（オンラインでの開催）において、特に「主体的に学習に取り組む態度」の評価について焦点化し、研究仮説を立てた。その上で、研究仮説に基づき、授業改善のポイントや教材、ワークシートを工夫することで、生徒が自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学びを調整しているかを検証した。

3 研究構想図

【共通研究テーマ】

これからの社会を主体的・創造的に生き抜いていく子供の育成

【研究主題】

主体的に学習に取り組む態度の育成～学びに向かう力、人間性等の涵養を目指して～

○ 現状の課題

音楽科の学習において、3年間を通して「学びに向かう力、人間性等」を涵養していくためには、教科の目標の(3)である、「音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培う。」を生徒が3年間の学びの結果、達成できることが求められる。

そのため、毎時間の授業では、自分自身で「何ができるようになったのか」「何が今後の課題なのか」「課題解決に向けてどのように学習に取り組むか」を把握できるようにしていくことが大切である。題材ごとに身に付けた資質・能力は他の題材や学習と関わる際にも活用できるように指導を工夫しているが、更に充実させていくことが課題である。そのために、振り返りやまとめの活動の取り入れ方を改善していく必要があると考える。

【研究仮説】

教師が、「主体的に学習に取り組む態度」の評価についての考え方を研究したり、題材に合わせた適切な評価方法を工夫したりすることで、「主体的に学習に取り組む態度」を適切に評価することができ、生徒は、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学びを調整しながら、学ぶようになるであろう。

【研究内容】

次の三つの視点から効果的な指導法を検討し、検証授業による実践研究を行う。具体的に授業内で設定する内容について、(・)で示した。

- 生徒の自ら学びたいという意欲を喚起させる、明確な目標の設定
 - ・ 授業の導入時や学習活動中など、適切なタイミングで前時の振り返りを生徒自身に確認させ、課題意識を明確にさせる。
 - ・ 本時の目標を板書やワークシート上に明記し、生徒と共有することで生徒が必要に応じて見返すことができるようにする。
- 本時の目標に迫る生徒たちの主体的な学習活動の設定
 - ・ グループ活動で明確な役割分担等を設定し、より目標に迫る主体的な学習活動にする。
 - ・ ペア学習で互いの表現を発表し技能を確認し合うことにより、自分自身では気付かない視点からの助言や改善案等を得られるよう、生徒それぞれの課題を把握させる場面を設定する。
- 生徒が自らの学びを実感できる振り返りの工夫
 - ・ 振り返りの時間に、授業内容のポイント等をワークシートや板書で示す。
 - ・ 一人1台の学習者用端末を活用し、自身の演奏を録音・録画してその場で確認するなど、表現分野における中間発表や途中経過を確認する時間を設ける。
 - ・ 他者と自分自身の振り返りを比較することで、今後の自分に必要な学習課題を改めて整理させる。

V 研究内容

1 生徒の自ら学びたいという意欲を喚起させる、明確な目標の設定

生徒が、題材や毎時間の学習の見通しをもち意欲的に学習活動に向かい、何が自分自身の課題であるのかを常に確認できるように明確な目標を設定する。その際、以下の2点を工夫する。

- 授業の導入時や学習活動中など、適切なタイミングで前時の振り返りを生徒自身に確認させ、課題意識を明確にさせる。
- 本時の目標を板書やワークシート上に明記して生徒と共有することで、必要に応じて「何が課題であるのか」を生徒が見返すことができるようにする。

2 本時の目標に迫る生徒たちの主体的な学習活動の設定

ペア学習やグループ学習を効果的に設定し、目標に迫る生徒の主体的な学習活動につながるよう、以下の2点を工夫する。

- グループ活動において明確な役割分担等を設定し、より目標に迫り主体的な学習活動に結びつく場面を設定する。
- ペア学習で互いの表現を発表し技能を確認し合うことにより、自分自身では気付かない視点からの助言や改善案等を得られるよう、生徒それぞれの課題を把握させる場面を設定する。

3 生徒が自らの学びを実感できる振り返りの工夫

題材ごとに身に付けた資質・能力を、本題材で活用したり、他の題材で活用したりすることができるようにすることが重要である。そのために、振り返りやまとめの活動の取り入れ方を改善していくため、以下の3点を工夫する。

- 既習事項を常に生徒が確認できるよう示すとともに、振り返りの時間に、授業内容のポイント等をワークシートや板書で示す。
- 一人1台の学習用端末を活用し、表現分野における中間発表や途中経過の録音・録画をし、確認できる時間を設ける。
- 他者と自分自身との振り返りを比較することで、今後の自分に必要な学習課題を改めて整理させる。

4 主体的に学習に取り組む態度の育成を目指した実践事例

(1) 実践事例1

ア 題材名 「和声の響きを感じ取り、音のつながり方を工夫して旋律をつくろう」

イ 題材の目標

- (ア) 和声の響きやリズム・パターン、旋律における音のつながり方を理解し、創意工夫を生かした表現で音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付ける。
- (イ) 和声の響きやリズム・パターン、旋律や音のつながり方を知覚し、それらの働きが生

み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのような旋律をつくるかについて思いや意図をもつ。

- (ウ) 和声の響きや、リズム・パターン、旋律や音のつながり方の違いによって生み出される曲想の変化に関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に創作活動に取り組むとともに、音楽に対する感性を豊かにする。

ウ 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知 和声の響きやリズム・パターン、旋律の音のつながり方を理解し、創意工夫を生かした表現で音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付けている。	思 ① 和声の響きやリズム・パターン、旋律や音のつながり方を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じようとしている。 思 ② 知覚・感受したことを結び付けながら、どのように旋律をつくるかについて思いや意図をもっている。	態 ① 和声の響きや、リズム・パターン、旋律や音のつながり方の違いによって生み出される曲想の変化に関心をもとうとしている。 態 ② 音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に創作の学習活動に取り組もうとしている。

エ 題材観

本題材は中学校学習指導要領第2章第5節音楽〔第1学年〕A表現(3)ア「創作表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、創作表現を創意工夫すること」、イ「次の(ア)及び(イ)について、表したいイメージと関わらせて理解すること」の(ア)「音のつながり方の特徴」、ウ「創意工夫を生かした表現で旋律や音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付けること」を実現させるための題材である。

〔共通事項〕に示す「音楽を形づくっている要素」に関しては、「リズム、旋律、テクスチャ」を学習させるのにふさわしい題材である。

リズムについては、旋律の工夫をする際にリズム・パターンを使用してリズムの変化をさせることを取り扱う。

旋律については、旋律のつながり方や和声の響き、4分の4拍子で4小節の曲全体の曲想に合わせて音を選択していくことを取り扱う。

テクスチャについては、和声の響きと旋律の関わり方を取り扱う。

オ 本題材における具体的な指導の工夫（（ ）内が、授業内での具体的な工夫点）

- 生徒が自ら学びたいという意欲を喚起させる、明確な目標の設定
 - ・ 前時の振り返りを、授業の導入時や表現活動中に見直す（作品の演奏、旋律づくりのルールの再確認）。
 - ・ 本時の目標を板書やワークシート上に明記し、生徒と共有することで生徒が必要に応じて見返せるようにする（プレゼンテーションソフトとホワイトボードを活用した板書計画）。
- 本時の目標に迫る生徒たちの主体的な学習活動の設定
 - ・ グループ活動で互いの表現を発表することで、多様な視点でそれぞれの課題を把握する（互いの作品を聴き合い、他の生徒の工夫点や作品のよさを感じ取り、自分の作

品づくりに生かす。)

○ 生徒が自らの学びを実感できる振り返りの工夫

- ・ 一人1台の学習者用端末を活用し、自身の演奏を録音・録画してその場で確認するなど、中間発表や途中経過を確認する時間を設ける（作品を録画し、授業支援アプリを使って教員に提出する。また、グループ内で録画した映像を見合うことで、互いの旋律の特徴を感じ取る。)

カ 題材の指導計画と評価計画（全3時間扱い）

時	◆ねらい ○学習内容 ・学習活動	知・技	思	態
		<>内は評価方法		
1	◆循環和声でつくられている音楽を聴き、その雰囲気や和声進行に関心をもち、主体的に創作活動に取り組む。 ○ 循環和声で作曲されている曲を聴き、曲想を感受し、同じ和声でつくられていることを知覚する。 ・ 旋律の特徴やリズム・速度によって曲想が変化することを話し合って確認する。 ○ 3人組になり、木琴で音を出しながら、4小節の旋律を創作する。 ・ 和声に含まれている音の中から任意の音を選び、2分音符のみを使用して4小節の旋律をつくる。 ・ 2分音符のみを使用してつくった4小節の旋律を、循環和声の演奏（以下「伴奏」という。）に合わせて木琴で演奏する。 ・ 3人組の内、演奏する人・伴奏の音源を流す人・録画する人（一人1台の学習者用端末活用）に分かれ、交互にそれぞれの作品をつくる。 ○ 自分の作品を聴いて、和声と合っているか、どのような曲想になっていたかを確認する。 ・ 動画に撮った演奏を聴いて気付いたことをワークシートに記入する。 ・ 代表生徒の作品を聴いたり、気付いた点を発表したりして全体で共有する。		思① へ観察へワークシートへ	態① へ観察へワークシートへ
2 (本時)	◆和声の響きやリズム・パターン、旋律や音のつながり方を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ、工夫して旋律をつくる。 ○ 前時で創作した旋律を伴奏に合わせて演奏し、工夫点や特徴の確認をする。 ・ 例を示して、反復、変化を聴き合い、どのような雰囲気の作品になるか知覚・感受する。 ・ 創作の技法としての反復や変化の方法を、プレゼンテーションに示されている模範の楽譜を参考に記入し、そのつど皆で演奏しながら、どのような曲想に変化するかを全体で共有する。 ○ 個人で、伴奏を聴き、伴奏の響きに合わせて旋律をつくる。 ・ ワークシートのステップⅠ、Ⅱ、Ⅲに沿って、自分が表現したい曲想に近づくよう、工夫して旋律をつくり、ワークシートに旋律や工夫点を記入する。 ○ この1時間に学習したことを振り返る。 ・ グループ内で、1回ずつ、互いの作品を中間発表する（途中作品でよい、と声を掛け、互いに録画したり伴奏を流したりして協力する。) ・ 自分の作品や、グループ内の他の生徒の作品を改めて聴き、最終的にどのような作品に仕上がっていきたいか、思いや意図を再確認し、ワークシートに記入する。		思② へ観察へワークシートへ	

3	◆課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付けて、創意工夫した旋律をつくる。 ◆音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に創作の学習活動に取り組むとともに、音楽に対する感性を豊かにする。			
	・ 今までの学習の振り返りとして、伴奏を聴き、前時までにつくった旋律を演奏する。 ○ 前回の中間発表時に気付いた点等を作品に反映させ、更に試行錯誤しながら作品を完成させる。 ・ どのような作品にしたいか考えながら、自分がイメージした旋律になるようにリズムや音高、和声との関わりや構成を工夫して、木琴で音を出しながら作品をつくりワークシートに作品と工夫点を記入する。 ○ できあがった作品を発表したり、録画をして互いに聴き合ったりし、学習内容のまとめをする。 ・ それぞれが作品の工夫点を発表した後に、録画を聴き合う。 ・ 作品を聴いた生徒は、感じた印象や気付いたことを発言する。 ・ 学習のまとめや振り返りをワークシートに記入する。	技 作品×ワークシート		態 ②観察×ワークシート

キ 本題材で使用したワークシート（一部抜粋）

③ つくった旋律を演奏してみよう。動画に撮って聴くなどして、どんな感じがしたか考えよう。

思考・判断・表現 & 主体的に学ぶ

自分の旋律が、和音と合っていたかどうか…

動画で聞いてみたら、どんな感じがしたか…（自分の作ってみたい作品のイメージってどんな感じだったかな？）

班のメンバーで聞き合ったら、何か分かったことや感じたことがあったか…

授業の振り返りの記入

年 組 番 氏 名

日付	自分の活動の振り返り	できるようになったこと・次回できるようにしたいことや、気付いたこと、大切に考えたいことを具体的に書く。
中間発表日	・自分の作品を聴きなおして気付いたことは？ ・ほかの人の作品を聴いて気付いたことは？ ・最終完成に向けて考えたいことは？	
最終日	・今回、自分の旋律づくりでできるようになったことは？ ・皆が素敵に思う音楽の特徴とはなんだろう？ ・今回の学習を通して、自分が考えたことや気付いた事は？	

ワークシートには、自分の考えと他の生徒からの意見とを色分けして記載する。そのことにより、工夫点や改善点に気づき、主体的に創作活動に取り組むことができるようにする。

ク 本題材で実際に生徒がワークシートに記入した例と評価のポイント

(ア) ワークシート③（第1時）主体的に取り組む態度の記入例

生徒の記入例	評価のポイント
〔評価Aの例〕 生徒①音に合わせて低い音で順次進行にしてゆったりとした感じにしていた人と、高い音を最後にもってきて全体的にまとめていた人がいた。順次進行を使うと、まとまって落ち着く感じになることが分かった。 〔評価Bの例〕	・ 旋律の動き方などについて学習したと結び付けて、感じたことや気付いたことを書いている…A ・ 感じたことや気付いたことを書いている…B

生徒② 全体的に高い音と低い音の中間位の音が多く、統一感があった。最後の音が高く、盛り上がりがあった。 〔評価Cの例〕 生徒③ もうちょっと低い音を入れたらよかったかも知れない。色々な音によって、おもしろい旋律になる。	
--	--

(イ) ワークシート（授業の振り返りの記入）中間発表（第2時）と最終日（第3時）
主体的に取り組む態度の記入例

中間発表時の振り返りの記入例	評価のポイント
〔評価Aの例〕 生徒① 高低差を出したところで、感動が生まれた。自分の旋律には跳躍進行がなかったけれど、友達に聴いてもらって「ド→ミのところを、ド→高いドにしたらどうか」とアドバイスをしてもらった。実際に演奏してみると高い音がアクセントになっていてよかった。友達の作品は跳躍の使い方がうまかった。終わり方が普通なので、もう少し工夫したい。 〔評価Bの例〕 生徒② 他の人の作品を聴いて、自分の作品はあまり音が変わってなくて、少し暗い感じがしたので、友達の作品を参考にして、順次進行を入れてみた。そうしたら、明るく楽しい雰囲気の商品になってきた。 生徒③（評価CからBへ変容） まず音を選び、リズムを工夫することができた。自分は、最初の方を8分音符にするとリズム感が崩れていってしまうことが分かった。音を増やす時に、もう少し順次進行を使えば、自然な仕上がりになりそうだと言った友達の演奏を聴いて思った。	- 自分の作品を聴き直して気付いたこと - 他の人の作品を聴いて気付いたこと - 作品の完成に向けて考えたいこと 上記の項目の全てに触れ、振り返りができている…A 上記の項目の内、二つについては触れて振り返りができている…B
最終日の振り返りの記入例	評価のポイント
〔評価Aの例〕 生徒① 前回は主に高い音で構成していたが、もっと低い音も加えて、誰が聴いても楽しくワクワクするようにした。使う音の幅を広げると、高い音と低い音で変化がついて、楽しく取り組めた。皆がすてきに思う音楽の特徴は、変化がついていて、聴いていて聴きやすく落ち着く曲だと私は思った。また、この学習を通して、少し音を変えるだけで音楽の曲想が変わって、曲は、一つ一つの音と、作曲者の思いが繋がったものだったと思った。 〔評価Bの例〕 生徒② 前回の反省を生かして、少し音を変えた部分をつくった。皆がすてきだと思える音楽の特徴とは、ところどころに跳躍進行が入ることだと考えたので、自分の旋律にも取り入れた。 生徒③ 同じ音を連打するだけでもかなりおもしろい音楽になった。今度は、和音の音以外も積極的に使ってみよう。1つでも音が変わると、かなり曲想が違うことが分かったが、色々な音を組み合わせるのは難しかった。	- 今回、自分の旋律づくりでできるようになったこと - 皆がすてきに思う音楽の特徴について考えたこと - 今回の学習を通して、自分が考えたことや気付いたこと 上記の項目の全てに触れ、振り返りができている…A 上記の項目の内、二つについては触れて振り返りができている…B

(2) 実践事例2

ア 題材名 「フィンガーボードの押さえ方を工夫し、曲想に合った「ストローク奏法」を身に付けて演奏しよう！」

イ 題材の目標

- (ア) ギターの音色や響きと奏法との関わりを理解し、創意工夫を生かした表現で演奏するために必要な奏法、身体の使い方などを身に付ける。
- (イ) ギターの音色やストローク奏法によるコードの響きを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したことの関わりについて考え、どのように演奏するかについて思いや意図をもつ。
- (ウ) ギターの構造や奏法の違いによる音色や響きの違いに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組むとともに音楽に対する感性を豊かに

する。

ウ 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知 ギターの音色や響きと奏法との関わりを理解し、創意工夫を生かした表現で演奏するために必要な奏法、身体の使い方などを身に付けている。	思 ① ギターの音色やストローク奏法によるコードの響きを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しようとしている。 思 ② 知覚したことと感受したことの関わりについて考え、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。	態 ① ギターの構造や奏法の違いによる音色や響きの違いに関心をもっている。 態 ② 音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組もうとしている。

エ 題材観

本題材は中学校学習指導要領第2章第5節音楽〔第1学年〕A表現(2)器楽ア「器楽表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、器楽表現を創意工夫すること」、イ「次の(ア)及び(イ)について理解すること」の(イ)「楽器の音色や響きと奏法との関わり」、ウ「次の(ア)及び(イ)の技能を身に付けること」の(ア)「創意工夫を生かした表現で演奏するために必要な奏法、身体の使い方などの技能」を実現させるための題材である。

〔共通事項〕に示す「音楽を形づくっている要素」のうち、「音色、リズム、速度」を学習させるのにふさわしい題材である。

1学期にギターの旋律弾きを学習し、ギターの音色や響きと奏法との関わりを学習した。今回はストローク奏法でコードを弾くことに発展させた題材である。旋律弾きで学習した経験を基に生徒がギターのコード弾きを試行錯誤しながら身に付け、ギター演奏の楽しみを広げられるようにしていきたい。また、どのようにフレットを押さえれば豊かな響きで演奏することができるのかなど、考えながら創意工夫した演奏を目指すことで、音楽に対する感性を豊かにし、音楽に親しむ態度やペア学習によるコミュニケーション力を養っていききたい。

オ 本題材における具体的な指導の工夫（（ ）内が、授業内での具体的な工夫点）

- 生徒が自ら学びたいという意欲を喚起させる、明確な目標の設定
 - ・ 前時の振り返りを、授業の導入時や表現活動中に見直す（ギターの構え方、フレットの押さえ方、ダイアグラムやコードの読み方）。
 - ・ 本時の目標を板書やワークシート上に明記する（板書やモニターに提示）。
- 本時の目標に迫る生徒たちの主体的な学習活動の設定
 - ・ グループ活動で互いの表現を発表し合うことで、多様な視点からそれぞれの課題を把握する（ペア学習を設け、良い点や工夫したい点などアドバイスし合う）。
- 生徒が自らの学びを実感できる振り返りの工夫
 - ・ 一人1台の学習者用端末を活用し、自身の演奏を録音・録画してその場で確認するなど、中間発表や途中経過を確認する時間を設ける（演奏を録画し、客観的に確認する。）。

カ 題材の指導計画と評価計画（全3時間扱い）

時	◆ねらい ○学習内容 ・学習活動	知・技	思	態
		<>内は評価方法		
1 (本時)	◆コードとダイアグラムを理解し、ストローク奏法でコードを演奏することに関心をもつ。 ◆ギターの音色を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、主体的に表現活動に取り組む。			
	○ 本題材の目標「コードを覚え、ストローク奏法でコードチェンジを演奏できるようにする」を確認し、本時の目標「コードとダイアグラムを理解して、三つのコード（G、D、C）を演奏する」ことを理解する。 - コードについて知っていることを全体で共有する。 - デジタル教材を活用しながら、ダイアグラムが弦とフィンガーボードの関係を図式化したものであることを確認する。 ○ ストローク奏法を習得する。 - アップストロークとダウンストロークの2種類があることを理解する。 - ギターの構え方を復習し、全開放、ダウンストローク奏法で全音符を全員で弾く。 ○ G、D、Cの三つのコードを習得する。 - 各コードの押さえ方をモニターにデジタル教材で示して説明し、フレットの押さえ方を確認して演奏する。 - 個人練習をした後、ペア学習を設け相互に確認をする。 - 三つのグループに分かれて、それぞれが別々のコードを担当し、デジタル教材に合わせて演奏する。 ○ 本時の振り返りをする。 - コードやダイアグラムについて理解ができたか、ストローク奏法を習得して演奏できたか、三つのコードの押さえ方を習得できたかという三つのポイントを振り返りワークシートに記入する。		思 ① 観察<ワークシート>	態 ① 観察<ワークシート>
2	◆ギターの音色や奏法を生かして、コードチェンジをどのように演奏するかについて思いや意図をもつ。			
	○ 本時の目標「コードチェンジを覚えてギターを演奏できるようにする」を確認する。 - 前時の復習として三つのコード（G、D、C）のダイアグラムの読み方と押さえ方を確認し、演奏する。 ○ コードを豊かな響きで演奏するための工夫を考える。 - 正しいポジションで押さえられている演奏と、指が他の弦に触れて響かない演奏を聴き比べる。 - コードを豊かな響きで演奏するための指の使い方や手や腕の使い方を考え、実際に演奏して確かめる。 - 考え工夫したことを数名が発表し、全体で共有し、ワークシートに記入する。 ○ ①～③のコードチェンジの方法を、大型モニターを活用して確認しながら演奏する。 ① G⇄Dのコードチェンジ ② C⇄Gのコードチェンジ ③ C⇄Gのコードチェンジ - 個人練習をした後、ペア学習を設け、アドバイスされたことをワークシートに記入する。 G、D、Cの三つのコードを組み合わせた④ G→D→G→C→D→Gのコードチェンジを理解し、ゆったりとしたテンポで演奏する。 - ペア学習を設け、アドバイスされたことをワークシートに記入する。 ○ 本時の振り返りをする。 - 三つのコードの押さえ方を覚えて、どのように演奏するとコードを豊かな響きで演奏できるのかについて思いや意図をワークシートに記入する。 - ゆったりとした速度でコードチェンジができたかについて振り返りワークシートに記入する。		思 ② 観察<ワークシート>	

3	◆ストローク奏法で簡単なリズムを演奏し、ギターの音色や奏法を生かした演奏になっているかについて思いや意図をもつ。 ◆ギターの音色や響きと奏法の関りに関心を持ち、本題材の学習を振り返りながら学習活動に取り組むとともに、ギターの演奏に必要な技能を身に付ける。			
	○ 本時の目標「ストローク奏法を身に付け、④のコード進行を演奏する」を確認する。 ・ 前時の復習として④のコード進行をゆったりとしたテンポで演奏する。 ○ 簡単なリズムをストローク奏法で演奏する。 ・ 1つのコードに対して♪♪♪と♪♪♪♪のリズムを付けて演奏する方法を考える。 ・ ♪♪♪は全てダウンストローク奏法で演奏し、♪♪♪♪のリズムはアップストローク奏法とダウンストローク奏法に空振りを入れた組合せで演奏することを確認する。 ○ ④のコード進行にストローク奏法を加えて演奏する。 ・ 2つのリズム・パターンのストローク奏法を④のコード進行で演奏する。 ○ 本時の振り返りをする。 ・ ストローク奏法を理解して演奏できたか、ゆったりとした速度でストローク奏法を加えたコードチェンジができたかについて振り返り、ワークシートに記入する。	【技】 へ実技へ ワークシートへ		②観察へ ワークシートへ

キ 本題材で使用したワークシート（一部抜粋）

8. 授業の振り返りと学習の成果をまとめよう。			
			思・判・表
			主体的
時	項 目	自己評価	自己コメント：上手くいったことそうではないこと・・・次回どうすればよいのか、できるようになるのか等を記入。
一時間目	コードやコードネーム、ダイアグラムを理解できましたか。	A・B・C	
	ストローク奏法を理解して演奏できましたか。	A・B・C	
	G、D、C のコードの押さえ方を理解できましたか。	A・B・C	
二時間目	G、D、C のコードの押さえ方を覚え、響きの豊かなコードを演奏することができましたか。	A・B・C	
	ゆったりとした速度でコードチェンジが出来ましたか？	A・B・C	
上記以外で学んだことや発見したことなどがあれば記入しよう…			

ク 本題材で実際に生徒がワークシートに記入した例と評価のポイント

ワークシート裏面（第1時の振り返り）主体的に取り組む態度の記入例

生徒の記入例	評価のポイント
〔評価Aの例〕 生徒① G、D、Cのコードの押さえ方は理解できたけれど、かすれた音しかならなかったの、練習しておきたい。友達の演奏を聞いたら、自分よりも響いていて、大きな音が鳴っていたので、自分とは、左手の押さえ方が違うのだと気付いた。次回は、左手の指をフレット近くで押さえ、しっかりとした音を出せるようになり、もっと難しいコードを演奏できるようにしたいです。 〔評価Bの例〕 生徒② 左手をしっかり押さえるとよい音が鳴ると分かった。もっと他のコードも演奏できるようにしたい。	ギターの奏法の違いによる音色や響きの違いに気付き、曲想に合った音色を出すために学んだことと次回への課題を書いている、さらにペア活動やグループ活動で気付いたことを書いている…A よい音色を出すために自分が学習したことや気付いたことを書いている…B

(3) 実践事例3

ア 題材名 「歌詞の内容や音楽の特徴を生かして合唱しよう」

イ 題材の目標

- (ア) 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付ける。
- (イ) 音の高低や重なり方、強弱の変化を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて思いや意図をもつ。
- (ウ) 音の高低や重なり方、強弱の変化によって生み出される曲想の変化に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組むとともに、音楽に対する感性を豊かにする。

ウ 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解し、創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付けようとしている。	思① 音の高低や重なり方、強弱の変化を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じようとしている。 思② 知覚・感受したことを結び付けながら、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。	態① 音の高低や重なり方、強弱の変化によって生み出される曲想の変化に関心をもっている。 態② 音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。

エ 題材観

本題材は中学校学習指導要領第2章第5節音楽〔第1学年〕A表現(1)ア「歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、歌唱表現を創意工夫すること」、イ「次の(ア)及び(イ)について理解すること」の(ア)「曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わり」、ウ「次の(ア)及び(イ)の技能を身に付けること」のイ「創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能」を身に付けることを実現させるための題材である。

〔共通事項〕に示す「音楽を形づくっている要素」に関しては、「旋律、テクスチャ、

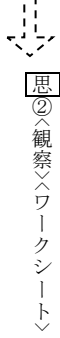
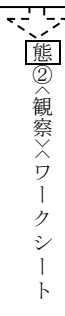
強弱」を学習させるのにふさわしい題材である。

オ 本題材における具体的な指導の工夫（（ ）内が、授業内での具体的な工夫点）

- 生徒が自ら学びたいという意欲を喚起させる、明確な目標の設定
 - ・ 前時の振り返りを、授業の導入時や学習活動中に見直す（振り返りを全体で共有し本時の目標と関連付けさせる。）。
 - ・ 本時の目標を板書やワークシート上に明記し、生徒と共有することで生徒が必要に応じて見返せるようにする（モニターとホワイトボードを活用した板書計画）。
- 本時の目標に迫る生徒たちの主体的な学習活動の設定
 - ・ グループ活動で互いの表現を発表し合うことで、多様な視点でそれぞれの課題を把握する（パートごとの歌唱を聴いたり、グループでの合唱を聴き合ったりする。）。
- 生徒が自らの学びを実感できる振り返りの工夫
 - ・ 一人1台の学習者用端末を活用し、自身の演奏を録音・録画してその場で確認するなど、中間発表や途中経過を確認する時間を設ける（録音を聴いたり比較したりする。）。

カ 題材の指導計画と評価計画（全3時間扱い）

時	◆ねらい ○学習内容 ・学習活動	知・技 思 態			
		<>内は評価方法			
1	◆音の高低や重なり方、強弱の変化によって生み出される曲想の変化に関心をもち、主体的に歌唱活動に取り組む。 ○ 曲を聴いたり歌ったりして、曲想を感受し、音楽の特徴を知覚する。 ・ 音の高低や重なり方、強弱によって曲想が変化することを全体で確認する。 ○ 歌詞を読んで曲想との関わりを理解する。 ・ 歌詞を読み、感じたことを全体で話し合いながら、内容の理解を深める。 ・ 歌詞の内容が曲想の変化とどのように関わっているのか、グループで話し合い、考えを深め、発表する。 ○ 全体で合唱し、音楽の特徴や歌詞の内容が曲想とどのように関わっているか確かめる。 ・ 録音した演奏を聴いて気付いたことをワークシートに記入する。 ・ 気付いた点を発表し、全体で共有する。 ○ 学習したことを振り返る。 ・ 自分の学習状況の進捗を確かめ、次回の授業でどのように学習を進めていけばよいか見通しをもち、ワークシートに記入する。			思 ①へ観察へワークシートへ ↓	態 ①へ観察へワークシートへ

2	◆音の高低や重なり方、強弱の変化を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ、どのように歌うか考える。 ○ 前時の振り返りを全体で共有し、本時の目標を確認する。 ・ 強弱の変化が曲想の変化にどのように関わっていたかを歌いながら確認する。 ・ どのように歌いたいかを考えるために必要な視点を確認する。 ○ 知覚・感受したことを結び付けながら、どのように歌いたいかについて思いや意図をもつ。 ・ 1番の部分について考え、ワークシートに記入する。 ・ 考えたことを共有し、歌いながら確かめたり、演奏を録音し聴いたりして表現の工夫を深める。 ○ 学習したことを振り返る。 ・ 今後の学習内容の予定を把握し、更に頑張りたいことは何か考え、ワークシートに記入する。			
3	◆全体の響きや各声部の声などを聴きながら、他者と合わせて歌う技能を身に付ける。 ◆音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に合唱の学習活動に取り組むとともに、音楽に対する感性を豊かにする。 ・ 既習内容の振り返りとして、前回考えた表現の工夫を確認し歌う。 ○ 1番で考えた表現の工夫を参考に、中間部以降の部分についても表現の工夫を考える。 ・ どのように歌いたいかを考え、グループで共有する。 ・ 出された意見を基に練習を行い、録音する。 ○ 録音した演奏をお互いに聴き合い、学習内容のまとめをする。 ・ それぞれが作品の工夫点を発表した後に、録音を聴き合う。 ・ 録音を聴いた生徒は、感じたことや気付いたことを発言する。 ・ 学習のまとめや振り返りをワークシートに記入する。			

キ 本題材で使用したワークシート（一部抜粋）

【振り返り】1時間ごとの学習内容に対して、できたこと、できるようにするために頑張りたいことなどを書きましょう。			
《主体的に学習に取り組む態度》			
月/日	感じたこと・思ったこと・気づいたこと	今日のひとこと感想	先生 チェック
	目標：自分のパートの音を確認し、他のパートと合わせる。		
	目標：ハーモニーを確認しながら歌う。音楽の特徴や歌詞の内容を確認する。		
	目標：歌詞や音楽の特徴に注目して、どのように歌えばよいのか考える。		

ク 本題材で実際に生徒がワークシートに記入した例と評価のポイント

(ア) ワークシート（第1時）主体的に取り組む態度の記入例

生徒の記入例	評価のポイント
〔評価Aの例〕 生徒①ユニゾンが多かったり、同じような旋律が繰り返されたりしていたので覚えやすかった。下行音型の時に音程が合わなくなってしまうので、地声ではなく裏声を使ったまま下行できるように練習したい。 〔評価Bの例〕 生徒②英語の歌詞が出てくるからしっかりと発音しないと何を言っているのか分からなくなり、他のパートと合わせたときにごちゃごちゃになる。高い音を出すときにきれいにしなかった。	音楽の特徴に関連付けながらできたことやできなかったことを書いている。更に、できなかったことについてどのように改善すればよいか自分の意見をもっている。…A できたことやできなかったことを書いている…B

(イ) ワークシート（第2時）主体的に取り組む態度の記入例

生徒の記入例	評価のポイント
〔評価Aの例〕 生徒①テノールにつなげるように音が上がるごとに強くしていくことができた。もっとスムーズに歌えるように、上行するところはきちんと裏声になり切り替えができるように低い音から高い音に行く練習をしたい。 生徒②前回はよく聞こえなかった英語の歌詞をしっかりと発音することで、曲のタイトルである練習番号Cの部分を生き生きとした曲想を出して、他のパートとタイミングを合わせて歌えるようになった。今後は、更にCを目立たせるために、直前の盛り上げ方も考えたい。 〔評価Bの例〕 生徒③どのように歌えばよいのか考えることはできても、実際に歌ってみようとする、なかなか表現することが難しかった。	表現の工夫や工夫したことを表現することについて、できたことやできなかったことを書いている。更に、できなかったことについてどのように改善すればよいか自分の意見をもっている。…A できたことやできなかったことを書いている…B

VI 研究の成果と課題

1 研究の成果

(1) 生徒が自ら学びたいという意欲を喚起させる明確な目標の設定

前時の振り返りを授業の導入時や表現活動中に見直すことで、できるようになったことやこれからの課題が何かを把握することができるようになった。更に、本時の目標を理解して本時の授業で何に集中して取り組めばよいのかが分かったことで、学びたいという意欲につながり主体的に学ぶ様子が見られた。

また、目標を板書やプリントで提示するだけでなく、教員やデジタル教材の模範演奏で示すことにより、より目標を具体的に捉えることができるようになった。ICT機器を活用し、目標とする表現をすぐに確認できるようになったことで、主体的に学ぶ意欲が更に高まった。

(2) 本時の目標に迫る生徒たちの主体的な学習活動の設定

グループ活動で互いの表現を発表し、意見を言い合ったりアドバイスをしたりすることで、多様な視点で課題を把握することができた。また、他者の発表を聴くことで自身の演奏の工夫点や改善点に自ら気付くことができ、言葉を介さずに音による交流を行うこともできた。

電子ホワイトボードを使った活動では、生徒が感じたことを即時に共有することで、意見交換が活発に行われた。それにより、自分では気付かなかったことに気付くことができ、試行錯誤して表現の工夫を考える活動につながった。

(3) 生徒が自らの学びを実感できる振り返りの工夫

ワークシートの振り返り欄にできるようになったことやこれからの課題について記入するような発問をあらかじめ明記しておくことで、生徒が自らの学びを振り返り、今後の学習の見通しをもつようになった。

表現活動では自分自身の演奏を客観的に振り返ることが難しいが、一人1台の学習者用端末で録音・録画し、その場ですぐに自分の演奏を見たり聴いたりすることで、今どのような状況なのかを確認することができた。自分の演奏や作品を聴いた生徒は、「想像していたよりも変化が少なかった」「自分のイメージしている曲想に合った作品にはまだなっていない」などの感想をもち、更に創意工夫を生かした音楽表現に取り組もうとする生徒が増えた。

2 研究の課題

(1) 生徒の自ら学びたいという意欲を喚起させる、明確な目標の設定

教員が目標を提示することに留まらず、生徒が自ら課題を設定し、主体的に学習に取り組む態度を養うために、より個に応じた目標を設定することが必要である。

(2) 本時の目標に迫る生徒たちの主体的な学習活動の設定

対話的な学習を一層活性化させるため、場面設定やグルーピング、教師の効果的な支援方法を工夫する必要がある。

また、他者からのアドバイスや支援を受けることで、生徒自身が自己の到達目標を修正し、粘り強く学習に取り組むことができるような学習場面や題材の工夫が必要である、

(3) 生徒が自らの学びを実感できる振り返りの工夫

一人1台の学習者用端末を用いて自らの演奏を確認する際には、音質や音量、聴き方に課題が残った。各自が一斉に再生すると音が混ざってしまい、自身の音に集中することが困難になるため、ヘッドフォンの使用やスピーカーの準備など場面に応じた機器の選定が重要になる。

何ができるようになったのか、どのような課題であるのかを把握しているかについてワークシートで見取ることができたが、学びの深まりの過程を見取るには課題が残った。また、文章で自分の思いを表現することが難しい生徒について、更なる個別の対応が必要であり、生徒の実態に応じた支援の工夫が必要である。

令和3年度 教育研究員名簿

中学校・音楽

学 校 名	職 名	氏 名
杉 並 区 立 井 荻 中 学 校	主 任 教 諭	田 那 辺 祐 希
三 鷹 市 立 第 三 中 学 校	主 任 教 諭	近 藤 芳 弘
府 中 市 立 府 中 第 九 中 学 校	教 諭	◎木 村 有 紀

◎ 世話人

〔担当〕 東京都教育庁指導部指導企画課
指導主事 神田 実季

令和 3 年度
教育研究員研究報告書
中学校・音楽

令和 4 年 3 月

編 集 東京都教育庁指導部指導企画課
所 在 地 東京都新宿区西新宿二丁目 8 番 1 号
電話番号 (03) 5320—6849